

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



青森県平内町
が応援するふるさと名物

「平内ホタテ活御膳」
～平内町は育成ホタテ水揚げ日本一!～





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

平成28年10月30日

青森県平内町

地域のプロフィール

平内町（ひらないまち）は青森県のほぼ中央に位置して、人口は約12,000人、陸奥湾に浅虫・夏泊県立自然公園の夏泊半島を突き出す、風光明媚な町です。

現在の主要産業は漁業が中心で、青森県全体の約半分をシェアする「ホタテ」の水揚げ高は単一の漁協で日本一を誇ります。

観光面では、美しい海と山がそびえ、自然が豊かなことから、国の特別天然記念物「小湊のハクチョウおよびその渡来地」、国の天然記念物「ツバキ自生北限地帯」をはじめ、夏泊半島をテーマパークとして、サイクリングやシーカヤック、トレッキング、スキーなど通年で楽しめるアクティビティが充実している平内町は「食べてよし、遊んでよし、暮らしてよし」の三拍子そろったふるさとです。





ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

青森県平内町

ふるさと名物の内容

【平内ホタテ活御膳】

平内町産の3年ものの活ホタテを使った「活ホタテの刺身」と「活ホタテのステーキ」はタテ、ヨコ、ナナメの3種類にカットされ、そのカット方法による食感の違いを楽しめるほか、ベビーホタテ5個を使った「ベビーホタテのお寿司」と「ベビーホタテの澄まし汁」、食後には「ホタテアイス」が味わえる、まさに育成ホタテ水揚げ日本一の平内町ならではの、贅沢ホタテ尽くしおもてなし御膳は、平内町でしか絶対に味わうことができない新・ご当地グルメです。



活用している地域資源

【ホタテ】

現在、単一漁協としてはホタテ水揚げ日本一を誇る平内町ですが、昭和9年には北海道の9万トンに対して青森県全体でもわずか130トン水揚げに過ぎませんでした。養殖技術の確立により、昭和45年以降には100億円産業までに成長を遂げています。今や「養殖ホタテ発祥の地」として「ホタテ王国ひらない」の知名度は国内外に広がっています。

◆平成27年度実績

青森県 97,065t

金額 157億2千8百万円（青森県全体）

平内町 47,664t（県内シェア49%）

金額 約80億円



ふるさと名物の関連商品

【ホタテの加工品】

自然と風土に育まれた素材をいかした水産加工品も好評。

地元水産加工会社で製造販売する貝ひもを使ったスナック「カリポリ」や「ほたてマヨネーズ」のほか、地元の女性団体グループが製造販売する「ホタテハンバーグ」や「ホタテの佃煮」などホタテにこだわった商品が豊富で人気です。



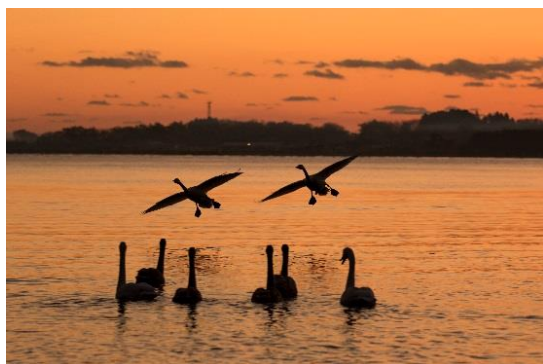
ふるさと名物
Furusato Meibutsu



ふるさと名物と関連した観光資源（参考）

【「平内ホタテ活御膳」と観光のコラボ】

平内ホタテ活御膳と観光スポットをコラボレーションした旅行商品に期待！



特別天然記念物「小湊のハクチョウおよびその渡来地浅所海岸」



天然記念物「ツバキ自生北限地帯」



夏泊半島サイクリングコース



夏泊半島の突端「大島」



夜越山スキー場



夜越山サボテン園

ふるさと名物の取り組み

【青森県内4地域の新・ご当地グルメで連携】

◆新・ご当地グルメネットワークあおもり(S1ーあおもり)の設立

2013年6月14日デビュー「深浦マグロステーキ丼」
2015年3月25日デビュー「平内ホタテ活御膳」
2015年7月 3日デビュー「中泊メバルの刺身と煮付け膳」
2016年3月29日デビュー「田子ガーリックステーキごはん」
「食材の宝庫・青森県」を地場産食材に徹底的にこだわった
新・OMOTENASHIご当地グルメで盛り上げていくため、
2016年4月18日に「新・ご当地グルメネットワークあおもり」
(略称:S-1あおもり)を設立

◆設立記念「食べ歩きスタンプラリー」の実施

青森県の新・OMOTENASHIご当地グルメ「深浦マグロステーキ丼」
「平内ホタテ活御膳」「中泊メバルの刺身と煮付け膳」「田子ガー
リックステーキごはん」これらの食による観光まちづくりにエネルギー
を注いでいる4つの協議会をひとつにまとめた「S-1パートナーズあ
おもり」の設立を記念して「食べ歩きスタンプラリー」を実施。



平内町の取り組み

◆広報事業

公式サイト「平内ホタテ活御膳」(Facebookページを含む)を運営し、平内ホタテ活御膳をPR。

◆「平内ホタテ活御膳」誕生1周年記念誌を発行

2015年3月25日に「平内ホタテ活御膳」誕生1周年を記念して、「食」が青森県を熱くする。」と題して記念誌を1万部発行。

◆平内ホタテ料理推進協議会運営費補助事業

平内ホタテ活御膳の開発・提供を担う町内事業者による協議会を町として支援するため、活動費を補助しています。

◆PR事業

毎年、9月に夜越山スキー場を会場に平内ホタテをPRするための最大イベント「ほたての祭典」を開催。県内外からの来場者数は毎年1万人以上。



ほたての祭典

◆活動記録

《テレビ関係》

【2015年】

- ・3月24日 NHK「あっぱるワイド」
(完成披露会) 青森放送「ニュースレーダー」
青森テレビ「ニュースワイド」
青森朝日放送「スーパーJチャンネル」
- ・4月 8日 青森テレビ「わっち!!」
- ・4月22日 日本テレビ・青森放送「ZIP!」
- ・5月29日 青森放送「ZIP! FRIDAY」
秋田放送「エビス堂☆金」
テレビ岩手「5きげんテレビ」
- ・6月25日 青森テレビ「わっち!!」
- ・7月11日 青森朝日放送「夢はここから生放送ハッピー」
- ・9月21日 青森朝日放送「WAKUWAKU AOMORI」
- ・11月2日 青森放送「ニュースレーダー」
青森朝日放送「スーパーJチャンネル」

《キャンペーン関係》

【2015年】

- ・4月6日～4月12日
1000食突破! ありがとうキャンペーン
- ・6月8日～6月21日
5000食突破! ありがとうW(ダブル) キャンペーン
- ・8月17日～8月23日
10000食突破! ありがとう感謝キャンペーン

《新聞掲載関係》

【2015年】

- ・3月25日 東奥日報(デビュー関連)
- ・3月26日 読売新聞(デビュー関連)
- ・3月26日 日本経済新聞(デビュー関連)
- ・4月 6日 釧路新聞(デビュー関連)
- ・4月 9日 東奥日報(1000食突破関連)
- ・6月14日 読売新聞(日曜インタビュー・ベイビー畑井特集)
- ・8月 7日 読売新聞(経済天気図・活御膳特集)
- ・8月11日 陸奥新報(青森県10万食達成関連)
- ・8月11日 東奥日報(青森県10万食達成関連)
- ・8月14日 東奥日報(10000食突破)
- ・11月3日 東奥日報(15000食突破)
- ・11月6日 東奥日報(社説)
- ・11月12日 読売新聞(15000食突破)
- ・12月15日 朝日新聞(味自慢・活御膳特集)

【2016年】

- ・1月22日 東奥日報(幼稚園テーブルマナー)
- ・2月22日 東奥日報(S1あおもり関連)

1周年記念誌



平内町長からのメッセージ

平内ホタテ活御膳は、平成27年3月25日のデビュー以来、1年で当初の予定1万食をはるかに超える1万7,500食提供され、その経済波及効果は9,100万円を超えました。当町の人口が約1万2千人であることを考えると、その数に驚きを隠せません。

当町は青森県産のホタテの約半分を水揚げする「ホタテの町」です。しかし、ホタテを食べれるお店がほとんどありませんでした。

デビュー以来マスコミにも取り上げられ、「平内ホタテ活御膳」を目当てに訪れる観光客が確実に増えています。このことから、開発の目標である「ホタテを食べるために平内町に一人でも多くの人に来てもらう」ことは達成できました。

町としても「活御膳」は食による地域の活性化と観光振興の目玉商品としてとらえ、今後も引き続き支援してまいります。

平内町長 船橋 茂久



ふるさと名物
Furusato Meibutsu